

その風格は個人的にもずい分教えられて来たことであつた。幼稚園教育関係者として、真に望ましい御人格であつたとその点からも、敬慕申上げてゐる次第である。

先生の御逝去は日本幼稚園界の太陽没すの感が深い、それも明日、また東天から登る太陽は期待出来ないことを思うと誠に痛惜に堪えないものがある。謹んで、先生の御冥福をお祈りするものである。

(日本私立幼稚園連合会理事長)

倉橋先生を偲ぶ

浅野壽美子

四月二十一日朝の新聞紙上に倉橋先生御逝去の記事を見た時は、何かしら幼稚園教育の柱を失つたような淋しさにうたれて傍然としてしまいました。

きけばその前日はお元気に庭を歩かれ、食事もすすまれて安らかにお休みになり、翌朝には大往生をとげられたとのこ

と、さすがに先生らしい御最後であり、またそのお徳の偉大さを今更ながら偲んだ次第です。

先生についての思い出は、私には数かぎりなくあります。第一に思い出されることは、先生の御講演はいつもその内容が極めて豊富であつて、美しいしかも味あることばを使って幼い子どもたちの姿を語られますのには私はいつも陶然としてしまいます。そうかと思うとまた茶目つたつぷりにみんなを笑わせながら測り知れない真髄にふれていて全く感激してしまいます。もう一度あの先生のお話がかがえたらなあ、と思う気持は私ばかりでなく先生を知るものと同じ想いだらうと思ひます。

第二に思い出されることは、私の幼稚園のいまの建物を建築するときその設計図をもつて市の建築技師の方と上京して二三の幼稚園を参観したり、文部省の御意見をきいたりしたあと、何んとかして先生に御指導いただき度いと思つて御病後と承わり気づかいながらお邪魔した時です。先生は喜んでこれを迎えて下さいました。長くお邪魔して若しお体にさわつてはどの私の心配をよそに、いろいろ幼稚園の現状をきいて下さいまして、持つていった設計図をみられて先生の卓抜な御意見を聞かせて下さつたり、またお茶の水の幼稚園を建設された当時のお話などして下さつたりして、色々参考にすることが多かつたのですが、その時先生が言われましたこ

とでその通りに出来なかったことが二つありました。しかも其の後私の心に強く残っていて、幼稚園の設計について相談をうける度に私は一番先きに注意をしています。その一つは玄関です。先生は「大人の玄関がすばらしく立派で子どもの玄関が極めて貧弱な幼稚園がよくあるが、これは子どものための幼稚園であるのにもおかしい。幼稚園では大人も子どもも同じく立派な玄関から出はりたいものだ」といったことです。

その二つは便所です。「便所は特に細心の注意をはらって作らなければならぬ。そして男子用、女児用の便所は異った場所に設けたい。出来なければせめて真中に仕切りをつけて入口を別にしたい」といったことです。

第三に思い出されることは、私の幼稚園が終戦後の社会事情のため、幼児数が非常に多くなりましたが、敷地、予算等の点から中々思う通りにならないことをお話ししますと先生はその幼児数を問われました。そこで私が三百八十人で十一組ですと答えしますと「ホウ幼稚園のオバケだね」とびっくりされました。なるほど、幼稚園のあり方から考えますとまさに化物のような存在だといまさらながら先生の形容のうまさに感心させられますし、現在でも皆さんにこの代名詞で私の幼稚園を紹介しています。

其の後お宅をおたづねしたり、フレーベル館でお逢いした

りいたします度に、いつもかわらない温顔で励まして下さいましたことは、感謝に堪えない次第です。

ただ一つの心残りは、一度名古屋へおまねき申上げて感謝の会をしたいと私はもちろん公私立の幼稚園の皆さんが念願していました。そこで私が先生にこのことを伝えますと、「約束だからきつといくよ」といって下さったのですが、御病氣やら、またお体にさわってはとこちらで用心してましたためその願いがついに達せられなかったことであります。

ちょうど先生の御納骨の日、大阪の愛珠幼稚園の中村先生と中野の御宅へ伺って御仏前に拝しまして、一生子どもの教育のために捧げて下さった先生の御功績に対して心からの感謝と御冥福を祈りましたが、飾られている写真は生前そのままの笑顔のお写真で、まだ先生が生きておられ「ああ浅野よきたね、子どものためにしっかたのみますよ」といつもいわれるお声でいわれているような錯覚をおこし、一面何か心暖まる思いがほのぼのとさす一方、ああもう先生はいないのだという心淋しい気にもなりましたが、先生の教えをこれからほんとうに生かすべく努力しなければならぬと、新たな抱負を心にいだいてかえってまいりました。

「先生は幼稚園の神様だ」と深く信じながら……

(名古屋市立第三幼稚園長)